

令和4年度
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国語
(50分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験番号	
------	--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

たとえば、ひとりの人物を思い浮かべてみるとしよう。

彼は若いが無職だ。とくに才能もない。学歴もない。それでも未来社会においては、政府から毎月の基礎所得を受け取り、それなりに暮らしている。むろん贅沢はできない。恋人もできないかもしれないし、将来のことを考えると憂鬱になるかもしれない。しかし、とりあえず衣食住の心配はない。狭い部屋に住み、安い食事をa撰^せつていけば、最低限の娯楽や情報へのアクセスもまた問題なくできる。いいことばかりではない。たとえば、基礎所得は現金ではなく追跡可能な電子貨幣としてbシキユウ^{かへい}され、使途はすべて国家により監視されているのかもしれない(パチンコや競馬に注ぎ込んだり、基礎所得を元手に借金を繰り返したりしないように)。あるいは危険な場所でのボランティアやcセンシティブな個人情報^{せんしゆびふ}の提供が義務づけられてもいるのかもしれない。未来社会では、医療情報やdライフログ^{らいふろぐ}はけっこうなお金になりそうだ。

彼の生活は全面的に国家に依存している。悪く言えば「動物」として飼われている。プライバシーも限られている。しかし、では彼は永遠にIのなかに閉じ込められているかといえば、決してそのようなことはない。

なぜか。それはネットワークがあるからだ。未来の世界は、集合的無意識の可視化が進んでいるだけではない。*ソーシャルメディアもまたいまよりもはるかに緊密に張り巡らされている。自動翻訳の精度もはるかに高まっていると考えてよいだろう。そしてこれらのサービスは相変わらずすべてcムリヨウ^{むりゆう}だろう。だから彼のまえには、たとえ狭く薄暗い自室に閉じ籠もったままだとしても、世界中の数十億の人間とのIIが驚くほど近い距離で開けている。

むろんその可能性のほとんどは彼の人生を変えない。彼と同じような若者のほとんども、またネットに向かつてもなにも人生が変わらないかもしれない。しかし、そこにはつねにIIIの可能性がある。

《 彼があるとき、オンラインゲームでd擦れ違ったユーザーから、ちよつとしたきっかけで熱帯雨林の話^{はなし}を聞かされたとする(未来世界でもいまだに地球温暖化が話題になっているとして)。その話がなぜか心に残る。彼は無職だ。時間だけはあまる。暇に飽かしてサイトを巡回してみる。ネットは独学にはたいへん向いているメディアだ。森林破壊や砂漠化や炭素排出権についてみるみる知識が蓄積していく。問題意識も深まる。ときおり意見もe開陳する。数年後、彼はいつのまにか、いかなる学歴も資格もないのに、専門家からすらも一目置かれる論客^{ろんかく}になっているかもしれない。そしてそんな彼がネットに投げた一文が、遠い外国でデモや抗議運動のきっかけになり、あるいはまた逆に、多国籍企業のトップの目に止まりその運営に活かされるかもしれない。

このような「事故」を想像するのはさして難しくない。それはすでに現代ですら起きているからだ。未来においてはさらに頻繁^{ひんぱん}に起きるだろう。

以上のような活動は、現在の常識では必ずしも「政治」には見えない。なぜならば、この例で言えば、①その男性は徹底して第三者であり、部外者だからである。彼は熱帯雨林の住民でもないし、反対運動の組織に属しているわけでもない。ネットでは活発かもしれないが、彼の*コミットメントはあまりに曖昧だ。現実の彼は、熱帯雨林や砂漠から遠く離れた異国に住み、自室にひきこもって、足元の地域社会や国家にはあいかかわらずなんの関心ももっていない、基

礎所得に依存してネットをやっている非政治的な若者にすぎない。

しかし、筆者は、未来の世界においては、そのような「ゆるい」政治参加、ネットワーク上の偶然の出会いを種として育つ、自分自身が決定権ももっていないければ、責任も取れない問題に対して行うゆるやかなコミットメントがきわめて重要な役割を果たすことになるかと考える。

というのも、未来の世界では、国家単位の政治が関わるのはもはや動物的な安全にすぎず、人々の知的な活動の多くは国境を越えており、そして②その活動の環境に対してはだれもがそもそもゆるやかなかたちでしか関われないはずだからである。

いま筆者は環境問題を例に出したが、それはあまりにも従来の意味での「政治」に近すぎ、かえって意図をわかりにくくしているかもしれない。だとすれば、たとえば、[※]グーグルやアップルのようなグローバルな情報産業のことを考えてみてほしい。グーグルのサービスやアップルの商品は、国境を越えて世界中に拡がっている。そしてそれぞれの地域で、無数の人々の生活に影響を与えている。グーグルやアップルの動向によって、企業の生産性が変わり市民の[※]クリエイティブティも変わるのだから、③それはもはや一種の権力だと言ってもいい。にもかかわらず、④わたしたちはだれひとりとして（グーグルやアップルの株主でないかぎり）、彼らの開発方針や経営展開に直接に口を出すことができない。そのかわり、いまの世界には、グーグルやアップルについて語っている無数の外部者が存在する。そしてその外部者の感想や[※]嘆きは、たとえばそれのものにはいかなる決定権もなかったとしても、ときに決定権のある人々を大きく動かすことがある。

（東 浩紀著 『一般意志2.0 ルソー、フロイト、グーグル』を一部改題）

- ※1 センシティブ | 取り扱いに細心の注意を要すること。
- ※2 ライフログ | 個人の生活行動がデータ化されたもの。
- ※3 ソーシャルメディア | インターネット等を用いた情報交流ネットワーク。
- ※4 開陳 | 自らの考えや意見や考えを開示すること。
- ※5 コミットメント | 連携、かかわり。
- ※6 グーグルやアップル | 多国籍企業名。
- ※7 クリエイティブティ | 創造性。

問一 s a s d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 I にあてはまる語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア 安全性
- イ 動物性
- ウ 主体性
- エ 公共性

問三

Ⅱ にあてはまる語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア パフォーマンス イ インフルエンサー ウ コミュニケーション エ カルチャー

問四

Ⅲ にあてはまる最も適当な語を文章中から二字で抜き出して書きなさい。

問五

《 》に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア また イ だから ウ しかし エ たとえば

問六

① 「その男性」と同じ人物を指す表現を文章中から七字で抜き出して書きなさい。

問七

② 「その活動の環境に対してはだれもがそもそもゆるやかなたちでしか関われないはずだからである」とありますが、それはなぜだと考えられますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 未来の世界では世界中に存在するネットワークがより細かなものになり、だれもが自身の考え方をこれまで以上に世界中の人へ知らせるようになっていくから。

イ 未来の世界では国家によるインターネット監視がより強固で厳しいものになるため、自身の発言がしにくくなり、政治への参加が難しくなるから。

ウ インターネットがより進化していく未来では、引きこもったままでも生活ができるようになるため、政治的なことより自身の生活だけを考える人が増えるから。

エ 国家という単位すらあいまいになる未来では、自国の政治へ関わることは全世界の政治に関わることになるため、広く浅い関わりしかできなくなるから。

問八

③ 「それ」の指す内容を文章中から十字で抜き出して書きなさい。

問九

④ 「わたしたち」を具体的に説明した表現を文章中から六字で抜き出して書きなさい。

問十 筆者がこの文章で述べた「事故」を分かりやすく次のように説明しました。(i)・(ii)を文章中からそれぞれ指定された字数で抜き出すことで完成させなさい。

その出来事に対して全く(i 三字)を持っていない人間のわずかな行動が、ときに(i 三字)のある人の意見を変えることとなり、その結果(ii 八字)に影響を与えてしまうということ。

問十一 ある高校の授業で、筆者がこの文章で述べたような「事故」の例を調べて発表しました。「事故」の例として適当でないものを次のア～エの中から
選び、その記号を書きなさい。

ア Aくん「ある大学生が、深刻な水不足で困っている東南アジアの村を自身のブログで紹介したことで、世界中から援助の声が上がったということがありました。」

イ Bさん「コロナウイルスの感染が広がる中、ある母親がハンバーガーチェーン店で消毒液の未設置をインターネットで指摘したところ、社長が謝罪し全店で消毒液を設置したということがありました。」

ウ Cさん「ある地方の中学生がインターネット上で不要な書き込みをしたことにより他のユーザーから問題視され、実名や住所を掲載されてしまい、実生活でも悪影響を受けたということがありました。」

エ Dくん「流通先がなく困っていた農家の野菜を、たまたま通りかかった高校生が自身のツイッターで紹介したことで、大手流通会社の目に留まり、その会社が販売することになったということがありました。」

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この文章は、主人公「彼」が病気で寝込んでいる「妻」と一緒に寝台から庭を眺めている場面である。

海浜の松が※₁ 風^{こがらし}に鳴り始めた。庭の a 片隅^{かたぐし}で①「一叢^{ひとむら}の小さなダリヤが縮んでいった。

彼は妻の寝ている寝台の傍^{そば}から、泉水の中の鈍い亀の姿を眺めていた。亀が泳ぐと、水面から輝^{きら}り返された明るい水影が、乾いた石の上で揺れていた。

「まあね、あなた、あの松の葉が此^この頃それは綺麗^{きれい}に光るのよ。」と妻は云^いった。

「お前は松の木を見ていたんだな。」

「ええ。」

「俺は亀を見てたんだ。」

二人はまたそのまま黙り出そうとした。

②「お前はそこで長い間寝ていて、お前の感想は、たった松の葉が美しく光ると云うことだけなのか。」

「ええ、だって、あたし、もう何も考えないことにしているの。」

「人間は何も考えないで寝ていられる筈^{はず}がない。」

「そりゃ考えることは考えるわ。③あたし、早くよくなって、シャツシャツと井戸で洗濯^{せんたく}がしたくつてならないの。」

「洗濯^{せんたく}がしたい？」

彼はこの※₂ 意想外の妻の欲望^{よくぼう}に笑い出した。

「お前はおかしな奴^{やつ}だね。俺に長い間苦勞^{くらう}をかけておいて、洗濯^{せんたく}がしたいとは変^{かわ}った奴^{やつ}だ。」

「でも、あんなに丈夫な時^{とき}が羨^{うらや}ましいの。あなたは不幸な方^{かた}だね。」

「うむ。」と彼は云^いった。

彼は妻を貰^{もら}うまでの四五年に渡る彼女の家庭との長い争闘^{しゅうとう}を考えた。それから妻ともケツン^{ケツン}してから、母と妻との間に挟^{くわ}まれた二年間の苦痛な時間を考えた。彼は母が死に、妻と二人になると、急に妻が胸の病気で寝^して了^{しま}った此^この一年間の※₃ 艱難^{かんなん}を思い出した。

④「なるほど、俺ももう洗濯^{せんたく}がしたくなくなった。」

「あたし、いま死んだってもういいわ。だけでも、あたし、あなたにもつと恩を返してから死にたいの。此の頃あたし、そればかり I になって。」

「俺に恩を返すって、どんなことをするんだね。」

「そりゃ、あたし、あなたを大切に、……」

「それから。」

「もつといろいろすることがあるわ。」

—— ≪ もうこの女は助からない、と彼は思った。

「俺はそう云うことは、どうだっていいんだ。ただ俺は、そうだね。俺は、ただ、ドイツのミュンヘンあたりへいつべん行って、それも、雨の降っている所でなくちや行く気がしない。」

「あたしも行きたい。」と妻は云うと、急に寝台の上で腹を波のようにうねらせた。

「お前は絶対安静だ。」

「いや、いや、あたし、歩きたい。起きてよ、ね、ね。」

「駄目だ。」

「あたし、死んだっていいから。」

「死んだって、始まらない。」

「いいわよ、いいわよ。」

「まア、じつとしてるんだ。それから、一生の仕事に、II がどんなに美しく光るかって云う形容詞を、たった一つ考え出すのだね。」

(中略)

彼は自分に向つて次ぎ次ぎに来る苦痛の波を避けようと思ったことはまだなかった。此のc オソツて来る苦痛の波の原因は、自分の肉の存在の最初に於て働いていたように思われたからである。彼は苦痛を譬えば砂糖を甜める舌のように、あらゆる感覚の眼を光らせて吟味しながら⑤甜め尽してやろうと決心した。そうして最後に、どの味が美味かったか。——⑥俺の身体は一本のプラスチックだ。何ものよりも、先ずでなければならぬ。と彼は考えた。

ダリヤの茎が干枯びた縄のように地の上で※₄むすぼれ出した。d 潮風が水平線の上から終日吹きつけて来て冬になった。

(横光 利一著 『春は馬車に乗って』を一部改題)

- ※1 風 | 秋から初冬にかけて吹く、強く冷たい風。
- ※2 意想外 | 思いもよらないこと。
- ※3 艱難 | 困難にあつて苦しみなやむこと。つらいこと。
- ※4 むすぼれ出した | 結んで解けにくくなった。

問一 S a s d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 **I** には、人の感情を表す一字が入ります。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 楽 イ 哀 ウ 苦 エ 恥

問三 **II** にあてはまる最も適当な語を文章中から三字で抜き出して書きなさい。

問四 ≪ ≫ に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア また イ だから ウ しかし エ たとえば

問五 ① 「一叢の小さなダリヤが縮んでいった」とありますが、この表現の説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 冬の訪れと、妻とともに歩んだ彼の苦難の月日が表現されている。

イ 冬の訪れと、夫婦でドイツに行きたいという彼の願いが表現されている。

ウ 冬の訪れと、妻の看病に疲れ切った彼の様子が表現されている。

エ 冬の訪れと、次第に衰弱していく妻の様子が表現されている。

問六 ② 「お前はそこで長い間寝ていて、お前の感想は、たった松の葉が美しく光ると云うことだけなのか。」と彼が言いましたが、この発言の理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 言い合いのような会話になり、険悪な雰囲気改善しようとしたため。

イ 夫婦で会話を始めたが話が続き、沈黙になりそうになったのを防ぐため。

ウ 夫婦で過ごす時間が短いため、少しでも長く一緒にいようとしたため。

エ 長い間寝たきりである妻を慰めようと、話を続けたため。

問七 ③「あたし、早くよくなって、シャツシャツと井戸で洗濯がしたくってならないの。」とありますが、この時の妻の気持ちを次のように説明しました。(i)・(ii)を文章中からそれぞれ指定された字数で抜き出すことで完成させなさい。

妻は(i 四字)が原因で、寝台で安静にしなければいけない状況であり、体が(ii 二字)だった頃に戻って思い切り動きたいという気持ち。

問八 ④「なるほど、俺ももう洗濯がしなくなった。」とありますが、彼の心境として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 妻に代わって家事をすることで、少しでも彼女の気分を和らげたい。

イ 妻の今までの境遇と本音をふまえ、その気持ちに寄り添いたい。

ウ 病気で落ち込む相手に合わせて、気の利いたことを言いたい。

エ 今までの境遇から、自分の心の中に生まれた憎しみを消し去りたい。

問九 ⑤「甜め尽してやろうと決心した」とありますが、その言葉には彼のどのような思いが込められていますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分がこれから立ち向かう苦痛は、大したものではないと甘くみている思い。

イ 目の前の砂糖の甘味にひたって、現状から抜け出したくないという思い。

ウ 自分にとっては苦痛に感じるはずの状況に、強気に立ち向かっていこうとする思い。

エ どうしようもない状況を前にして、都合良く解釈して現実逃避したいという思い。

問十 ⑥「俺の身体は一本のプラスチックだ。」という表現をふまえて、その直後の「何ものよりも、先ず でなければならぬ。」の にあてはまる語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 便利 イ 強力 ウ 透明 エ ひたむき

問十一 文章の内容と合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 彼はドイツのミュンヘン旅行を計画したが、旅費が二人分も払えないので一人で行こうと決心をした。

イ 彼は自分に次ぎ次ぎに訪れる苦労を自分のものとして受け止め、冷静に見ていこうと決心をした。

ウ 彼はこれ以上自分が傷つきたくないという思いから、あらゆる苦難に接触しない決心をした。

エ 彼はこれまで苦労をかけられた妻への仕返しのため、旅行に行きたいという妻の希望を叶えない決心をした。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、おとこ有^{あり}けり。童^{わらわ}より仕^{つか}うまつりける君、御^{みくし}髪おろしたまうてけり。①正月にはかならずまうでけり。おほ^{おほ}やけの宮仕えしければ、

(男がお仕えしていた親王が出家なされた。)

(出家した男の住まいを訪ねた。)

(おとこは、朝廷で働く身であったので)

常にはえまうでず。

されど、もとの心うしなはでまうでけるになん有^{あり}ける。昔仕^{あつ}うまつりし人、俗^{ぞく}なる、禪^{ぜんじ}師なる、あまたまいり集^{あつ}りて、正月

(常に訪ねることはできなかった。)

(出家する前から仕えていた気持ちを忘れずに)

(出家していない人も、法師も)

なれば事だつとて、②大御酒^{おほみき}たまひけり。雪こぼすがごと降りて、ひねもすにやまず。みな人酔^よひて、「雪に降りこめられたり」といふを題^{だい}にて、歌あり

(特別であるというので)

(雪がはげしく降って)

(二日中)

けり。

思へども身をしわけねば目^め離^かれせぬ

(いつも君のもとにいたいと思つていますが、この身を二つに分けることはできないため、なかなか参ることができません。)

ゆきのつもるぞわが□なる

(今日は雪が降りつづいて積もつているので、帰ることができなくなり希望が叶いました。)

とよめりければ、③親王^{みこ}、いといたうあはれがりたまうて、御衣^ぞぬぎてたまへりけり。

『伊勢物語』より)

問一 く「おほやけ」を現代かなづかいで書きなさい。

問二 □にあてはまる語を文章中から漢字一字で抜き出して書きなさい。

問三 ①「正月にはかならずまうでけり。」とありますが、誰が誰のもとへ行ったのですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 童が俗なる者のもとへ イ おとこが君のもとへ ウ 禪師がおとこのもとへ エ 君がおとこのもとへ

問四 ②「大御酒たまひけり」とありますが、その理由を文章中から十字以内で抜き出して書きなさい。

問五 ③「親王」と同じ人物を指す表現を文章中から八字で抜き出して書きなさい。

問六 文章の内容と合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 男は親王の宴会に参加しようとしたが、大雪で道に迷いかろうじてたどりついた。

イ 男は子供のころから朝廷につかえていたが、ある日髪を下ろして出家した。

ウ 男は美しい月と雪を見ながら仲間と酒を飲み、酔っ払ってしまい衣服を脱いでしまった。

エ 男は雪の歌によって自分の心情を見事に表現し、親王から衣を受け取った。

